

平成16年度宮城県学習状況調査結果の概要について

1 調査のあらまし

- (1) 県内小・中学校児童生徒の学習定着状況を調査し、今後の学習指導の改善充実に資するため、小学校5年生(国語・社会・算数・理科)及び中学校2年生(国語・社会・数学・理科・英語)を対象に、平成16年11月25日(木)に悉皆で実施した。
- (2) 平成16年度は、宮城・岩手・和歌山・福岡各県が参画する地方分権研究会の取組の一環として、該当学年の夏休み前までに学習していると推定される4県同一の設問内容とした。
- (3) 平成15年度に引き続き本県独自で学習意識調査を実施した。

2 結果の概要(別紙1・2参照)

(1) 学習状況調査

全体の状況

- (ア) 別紙のとおり各問題の正答率を4段階に区分した場合、調査に際し従来から本県で定着の目安と想定した正答率60%以上段階の問題が6割を超え(計290問中178問、全体の61.4%)、全体としておおむね学習定着がなされているとした前年度(62.5%)とほぼ同程度となった。
- (イ) その上で地方分権研究会では、正答率70%程度を全体的な学習の目標に掲げるとともに、この目標に沿って問題ごとに正答を期待する割合を掲げたが(期待正答率)、正答率70%以上の問題は全体の44.5%、期待正答率と同程度以上の問題45.2%といずれも半数以下となった。
- (ウ) 以上を地方分権研究会参画4県全体の状況と比較すると、正答率60%以上段階の問題(本県61.4%、4県63.4%)、70%以上段階の問題(本県44.5%、4県46.2%)、期待正答率と同程度以上の問題(本県45.2%、4県全体50.3%)と、いずれも4県全体の状況を下回り、県・市町村教育委員会及び小・中学校を通じた学力向上に向けてのさらなる取組充実が必要である。

小学校の状況

- (ア) 学習定着の目安とした正答率60%以上段階の問題は、国語31問中22問(71.0%)、算数34問中28問(82.4%)、新たに実施した社会29問中22問(75.9%)、理科37問中24問(64.9%)と、全教科で6割を超えたが、理科で比較的正答率が低い状況となった。
- (イ) さらに地方分権研究会の目標の正答率70%以上段階の問題54.2%、期待正答率と同程度以上の問題58.0%と、いずれも地方分権研究会で良好な状況と判断する過半数段階を超えた。
- (ウ) しかしながら、参画4県全体の状況と比較すると、正答率60%以上段階の問題(本県73.3%、4県76.3%)、70%以上段階の問題(本県54.2%、4県58.8%)、期待正答率と同程度以上の問題(本県58.0%、4県63.4%)と、いずれも4県平均を下回り、授業全般の底上げが必要である。

中学校の状況

- (ア) 正答率60%以上段階の問題は、国語31問中24問(77.4%)、英語30問中22問(73.3%)、数学27問中13問(48.1%)と、前年度同様数学に課題が見られるほか、新実施の社会33問中11問(33.3%)及び理科38問中12問(31.6%)で定着の目安の段階に達しない結果となった。
- (イ) さらに目標とする正答率70%以上段階の問題36.5%、期待正答率と同程度以上の問題34.6%と、いずれも過半数に達しない状況となった。
- (ウ) 4県全体と比較すると、正答率60%以上段階(本県51.6%、4県52.8%)及び正答率70%以上段階(本県36.5%、4県35.8%)の問題割合はほぼ4県並みだが、期待正答率と同程度以上の問題は本県(34.6%)が4県(39.6%)を下回り、義務教育の最終段階として一層の改善が必要である。

(2) 学習意識調査

小中学校を通じ学習への意識は高いが、学校の授業内容の理解では、小学生はおおむね良好であるものの中学生は不十分であり、家庭での学習時間では小中学生とも十分ではない。日常面では、小中学生とも読書時間が少ないなど、今後、授業内容の理解を高める指導方法改善とともに、家庭学習充実のための学校・家庭一体での取組をさらに進める必要がある。

(3) 国調査等との比較

国の平成13年度全国調査(抽出率6~8%)では、国語や英語の聞き取り問題等が良好な一方、算数・数学の文章問題、英語英文法等で正答率が低く、今回の本県の結果も同様の傾向にある。学習意識調査の結果も、国の平成13年度調査結果と同様の傾向にある。なお、昨年末公表の各種国際調査で、我が国の児童生徒の読解力や数学的な解釈等の課題が指摘されたが、本県の結果も同傾向にある(例：中学校国語論説文読解及び数学図形問題等)。

3 今後の対応

(1) 各方面への周知

今回の結果は、各種会議及び教員研修等様々な機会に周知し、各学校及び市町村教育委員会の取組充実を促すほか、県教育委員会ホームページに掲載するなどして広く情報を提供していく。

(2) 各学校の授業改善等の推進

特に今回は、新たに市町村別の問題ごとの正答率の状況を公表するほか、市町村教育委員会を通じ各学校ごとの結果情報を提供することとしており、各教育委員会及び各学校に対し、調査結果と併せた学習指導上の対応方策の保護者等への説明及び方策の実践を促していく。

(3) 調査の継続実施

平成17年度も継続して学習状況・学習意識調査を行うこととしており、このうち学習状況に関しては、引き続き地方分権研究会に参画し、データ蓄積と調査結果の効果的活用を図っていく。

結果概況

1 学習定着状況調査結果(校種・教科・領域別)

校種	教科	領域	問題数	左の正答率区分(単位:問)				説明(設問の趣旨と正答率から見た結果等)
				70%以上	60%以上 70%未満	40%以上 60%未満	40% 未満	
小学校5年生	国語	話すこと・聞くこと	3	3				音声CDから話の内容を正確に聞き取る問題。正答率は8割以上と高い。
		書くこと	3	1		2		考えが明確になるよう段落相互の関係を考え書く問題は5割から6割。
		読むこと	10	5	2	2	1	文学的文章・説明的文章の読み取りは、7問が6割から8割。2問は約5割、比喩表現を抜き出す問題は1割と低い。
		言語事項	15	8	3	4		漢字の読み、文の組み立てなど11問が6割以上。漢字書き取り、ローマ字などが6割未満。
		計	31	17	5	8	1	
	社会	地域の人々の安全な生活	6	6				安全を守る施設・設備の役割、仕事内容に関する問題。全問が7割から9割と高い。
		地域の暮らしの移り変わり	4	4				音の暮らしに関する問題。全問が8割以上と高い。
		地域の地形・土地利用	9	3	1	5		地図や地形図を読み取る問題。4問が6割以上。方位や等高線、地図記号等の5問が6割未満。
		我が国の農業	10	5	3	2		日本の農業、米作りに関する問題。8問が6割以上。グラフ資料の読み取り2問が6割未満。
		計	29	18	4	7		
	算数	数と計算	16	9	4	2	1	基本的な計算等の13問が6割以上。記数法の理解、計算の決まりの2問が6割未満、分数と整数の大小比較は2割。
		量と測定	3	2	1			角の大きさ、複合図形の面積。全問が6割以上。
		図形	8	5	2	1		基本的な平面図形の性質。7問が7割から9割。2直線の平行を問う問題は約6割。
		数量関係	7	4	1	1	1	資料の整理など4問が7割以上、1問が6割。式から具体場面を考える問題が約5割、変化の規則性を考える問題は2割と低い。
		計	34	20	8	4	2	
理科	地球と宇宙	11	5	3	2	1	月の動きと水の温度変化の問題は4割、結露に係る記述問題が3割と低い。	
	物質とエネルギー	13	5	2	2	4	空気の温度変化や乾電池のつなぎ方の問題などが3割程度。	
	生物とその環境	13	6	3	4		動植物の成長の問題、記述問題や実験方法の問題は4割と低い。	
	計	37	16	8	8	5		
	計	131	71	25	27	8		
中学校2年生	国語	話すこと・聞くこと	3	3				音声CDから話のポイントを的確に聞き取る問題で約8割から9割と高い。
		書くこと	3	1	1	1		資料から課題を見付け、適切な構成を工夫し、考えや感想を書く問題で約6割及び8割。
		読むこと	10	4	4	2		文学的文章の要旨をとらえる問題は全て6割以上、説明的文章の要旨をとらえる問題で6割未満。
		言語事項	15	10	1	3	1	漢字の読み、語句問題は概ね8割以上と高いが漢字書き取り、文法が5割から3割と低い。
		計	31	18	6	6	1	
	社会	世界と日本の地域構成	10	2		6	2	緯度・経度、都道府県の位置と名称に関する問題が3割から5割と低い。
		地域の規模に応じた調査	8	2	1	2	3	地形図や資料の活用問題、等高線と縮尺、資料から社会的現象をとらえる問題が4割未満。
		古代までの日本	6	1	3	1	1	平安時代までの問題、平安時代の政治の特色、奈良時代の文化の特色をとらえる問題で6割未満。
		中世の日本	5			3	2	鎌倉・室町時代の問題、いずれも6割未満。鎌倉幕府創設者、室町時代の農村の問題は4割未満。
		近世の日本	4		2	1	1	豊臣秀吉の政策、武家諸法度、鎖国下の貿易の問題でいずれも4割から6割。
	計	33	5	6	13	9		
	数学	数と式	14	4	2	4	4	基本的な計算は6割から8割。文字式、速さに関する文章問題は2割から3割と低い。
		図形	6	1	1	3	1	平面図形、直線や平面の位置関係、空間図形、点対称と回転は6割以上、角の二等分線の作図、ねじれの位置、直線と平面の垂直は5割。展開図からの円柱の求積2割と低い。
		数量関係	7	5		2		比例・反比例の問題。5問が7割から8割と高い。グラフの利用と反比例の式を求める問題5割。
		計	27	10	3	9	5	
		身近な物理現象	6		1	3	2	光の屈折、凸レンズの像は5割。振動数と音の高低、2力のつり合いの問題は2割から3割。
	理科	身のまわりの物質	6			3	3	物質の性質、気体・水溶液の性質の問題が全て6割未満で、特にメスシリンダーによる測定、気体発生の方法、中和に関する3問が約3割。
		電流とその利用	7	1	1	2	3	回路と電流・電圧、磁界の問題。電流の問題は6割以上。電圧測定、グラフ化、磁界の問題は3割。
		植物の生活と種類	8	2		2	4	光合成の問題は7割以上と高い。胚珠や雄蕊、被子・裸子植物の特徴の問題は全て4割未満。
		動物の生活と種類	5	4	1			動物の体のつくりと働きに関する問題。全て6割から8割。
		大地の変化	6	1	1	3	1	火山と地震の問題。地層に関する2問は6割以上。深成岩のでき方の記述問題は2割。
	計	38	8	4	13	13		
	英語	聞くこと	10	10				英文を聞き必要な情報を聞き取る問題。10問中1問が7割、9問が8割以上と高い。
		読むこと	15	7	4	2	2	対話文や長文の読解、日常会話の理解の問題。疑問詞、一人称・現在時制の問題が3割未満。
		書くこと	5		1	2	2	単語を並べ替えて正しい順序文を作成する問題と英作文、指示に即して3文以上を作成する問題1問のみが6割段階で他は全て2割から4割と低い。
計	30	17	5	4	4			
計	159	58	24	45	32			
計	290	129	49	72	40			

(注)小・中学校とも社会・理科は新規実施。

2 学習意識調査(項目・観点別)結果

項目	観点	結果(特徴等)
学習に対する意識	学習の大切さ	小学生、中学生ともに約9割が勉強は大切だと思っている。
	学習する理由	小学生の9割、中学生の8割が勉強は自分の生活や社会に出て役に立つと思っている。
	学習意欲	小学生の8割、中学生の7割が日常の生活や社会で役立つ勉強をしたいと思っている。
学校での学習状況	授業の理解	小学生7割、中学生5割が学校の勉強が分かる、小学生3割、中学生5割でよくは分からないと回答。
	分からない場合の対応	小学生は「友人、家族、先生」の順にたずね、中学生は「友人、自分で調べる、先生」の順になっている。
	始業前の準備	小学生の約6割、中学生の約7割が始業前に教科書等を準備。小学生の約4割、中学生の約3割は準備しない。
家庭での学習状況	教材等の準備	小学生、中学生ともに約8割が学校に持っていき(ものを事前(前日等)に確認している。
	家庭での学習時間	小学生の約4割、中学生の約6割が平日1時間以上(塾等含む)、小・中学生とも約3割が30分未満で小学生の約1割、中学生の約2割はほとんどしない。
	授業以外の学習方法	小学生の約2割(国語)から約3割(算数)、中学生の約2割(国語・理科・社会)から約5割(英語・数学)が塾や家庭教師に教えられている。
	学校の宿題(程度)	小学生の約9割はほぼ毎日宿題を出されているが、中学生の約5割は週1回、またはほとんど出されていない。
その他	学校の宿題(教科)	宿題の中で多く出される教科は、小学生は国語、算数が8割以上、中学生は数学、英語が約6割。
	家庭での学習内容	小学生の約7割、中学生の約6割が宿題があれば学習し、宿題以外の予習・復習をするのは小学生の4割、中学生の約3割となっている。
	家庭での学習環境	教えてもらう人は、小学生9割が家族、中学生約5割が家族、家庭教師や塾が約3割、誰もいないが2割である。
その他	読書時間	小・中学生の約8割が平日の読書時間が1日30分未満、中学生の約5割は平日ほとんど読書をしていない。
	情報を得る手段	小・中学生の8割以上がテレビから、次に新聞や本・雑誌となっている。インターネットからは小学生2割、中学生約3割である。

【参考】地方分権研究会結果概況 - 地方分権研究会参画県全体(岩手, 宮城, 和歌山, 福岡)における状況 -

参考1 正答率段階ベース比較(正答率60%以上段階, 70%以上段階の問題数とその割合)

(1)小学校 数字は問題数であり, カッコ内はそのシェア。
60%以上段階の問題数 | 70%以上段階の問題数
国語 | 社会 | 算数 | 理科 | 計 | 国語 | 社会 | 算数 | 理科 | 計

(注)表中「4県」とは4県全体の平均(以下全て同様)

(2)中学校

60%以上段階の問題数 | 70%以上段階の問題数
国語 | 社会 | 数学 | 理科 | 英語 | 計 | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 | 英語 | 計

参考2 期待正答率ベース比較

(1)小学校

(国語) 区分 | 県名 | 問題数(小問数) | 期待正答率を上回ると考えられるもの(A) | 期待正答率と同程度と考えられるもの(B) | 小計(A+B) | 期待正答率を下回ると考えられるもの(C)

(社会) 区分 | 県名 | 問題数(小問数) | 期待正答率を上回ると考えられるもの(A) | 期待正答率と同程度と考えられるもの(B) | 小計(A+B) | 期待正答率を下回ると考えられるもの(C)

(算数) 区分 | 県名 | 問題数(小問数) | 期待正答率を上回ると考えられるもの(A) | 期待正答率と同程度と考えられるもの(B) | 小計(A+B) | 期待正答率を下回ると考えられるもの(C)

(理科) 区分 | 県名 | 問題数(小問数) | 期待正答率を上回ると考えられるもの(A) | 期待正答率と同程度と考えられるもの(B) | 小計(A+B) | 期待正答率を下回ると考えられるもの(C)

(2)中学校

(国語) 区分 | 県名 | 問題数(小問数) | 期待正答率を上回ると考えられるもの(A) | 期待正答率と同程度と考えられるもの(B) | 小計(A+B) | 期待正答率を下回ると考えられるもの(C)

(社会) 区分 | 県名 | 問題数(小問数) | 期待正答率を上回ると考えられるもの(A) | 期待正答率と同程度と考えられるもの(B) | 小計(A+B) | 期待正答率を下回ると考えられるもの(C)

(数学) 区分 | 県名 | 問題数(小問数) | 期待正答率を上回ると考えられるもの(A) | 期待正答率と同程度と考えられるもの(B) | 小計(A+B) | 期待正答率を下回ると考えられるもの(C)

(理科) 区分 | 県名 | 問題数(小問数) | 期待正答率を上回ると考えられるもの(A) | 期待正答率と同程度と考えられるもの(B) | 小計(A+B) | 期待正答率を下回ると考えられるもの(C)

(英語) 区分 | 県名 | 問題数(小問数) | 期待正答率を上回ると考えられるもの(A) | 期待正答率と同程度と考えられるもの(B) | 小計(A+B) | 期待正答率を下回ると考えられるもの(C)

(3) (1)小学校(2)中学校累計 カッコ内は問題数のシェア

校種 | 教科 | 問題数(小問数) | 期待正答率を上回ると考えられるもの(A) | 期待正答率と同程度と考えられるもの(B) | 期待正答率を下回ると考えられるもの(C) | 期待正答率と同程度以上(A+B)

注(1)「期待正答率」とは, 地方分権研究会として掲げる全体的な学習の目標(全体として正答率70%程度を目標)に沿って, 個々の問題ごとに正答を期待する児童生徒の割合を%で表したものである。
注(2)「期待正答率」とは「期待正答率」とは期待正答率と±5%の範囲内にあるもの。
注(3)「地方分権研究会」では, 今回の調査において, 期待正答率とほぼ同程度以上の問題が過半数(表中A+B/C)であれば, 学習定着は良好と判断することとしている。